

概要

- ・長崎くんちの籠踊など、県内郷土芸能資料を常設展示し、無理な時はレプリカか映像で紹介する。※1
- ・広場では土日に、県内各地の郷土芸能のイベントを開催する。郷土料理のレストランや物販施設併設※2
- ・長崎くんちと同様の石畳と可動式観覧席を導入し、郷土芸能披露と見物が容易になる。※3
- ・県内にある芸能の本物を一堂に展示見学にすることで、観光客に次は市町村に行き地元で本番を見たいと思わせたい。そして各市町村観光地や係と連携し広域ルートを提示し、長崎県観光リピーター獲得を狙う。※4

※1 国重要無形民俗文化財約10件、県無形民俗文化財約25件、など。

長崎伝統芸能館（グラバー園内）各市町村資料館など。

※2 長崎阿蘭陀年での日蘭くんちと日蘭まつり（4～11月）、開催。

長崎県民俗芸能大会・県教育委員会、長崎郷土芸能大会・市文化財課、開催。

※3 県立体育館（アリーナカブトガニ）の可動式観覧席等と長崎くんちの石畳など。

※4 長崎県内各地の世界遺産 産業革命遺産と潜伏キリシタン遺産 との連携を図る。

目的

- ・長崎県郷土芸能資料館は、資料の展示発掘保存、後継者育成、観光情報発信、街づくり、などに取組み、現在の問題点に改善対応し、展示に加えてこれからの時代に効果のある保存継承施設を目指す。
- ・広場は長崎くんち御旅所としても利用し、可動式観覧席は毎年の棧敷席設営の費用を削減出来る。使用しない時は倉庫にコンパクトに収納出来るので、広場の自由自在な配置と利用が可能となる。
- ・本来ならば見学に何日何箇所も時間と手間がかかるものを、1ヶ所短時間で県内各地の芸能の見学が出来る。
- ・土日には県内芸能の実演イベントを行い、地元の特産品販売なども同時に実施し賑わいを図る。
- ・マスコミでの宣伝や旅行会社と連携し、学会等コンベンションの分科会場やアフター施設として誘致し、それに加えて以外にもSNSによる長崎県内の情報提供、などで長崎ファン獲得を狙う。
- ・併設する物産販売施設で県産品の販路拡大、レストランで地元の食提供、による消費拡大を図る。
- ・長崎くんちは長崎の町人文化の集大成であり、活用することは「まちなか」商店街の振興策になり、大勢の賛意を得ることになる。このことは各地域の祭礼行事にも同じような精神が生き続けているので、長崎県内各地の振興に寄与することになると信じて提案する。